

えどがわ 区議会 だより

令和4年第4回定例会号



発行
江戸川区議会



<https://www.gikai.city.edogawa.tokyo.jp/>



**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS**

江戸川区議会は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

新年を迎え皆様のご健康とご多幸を 心からお祈りいたします



福本議長

堀江副議長

区民の皆様には健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

令和5年の幕開けにあたり、江戸川区議会を代表し、新年のご挨拶を申し上げます。

区議会は、今春改選期を迎えます。過去4年間の活動を振り返りますと、議会内外で様々な活動を行って参りました。いずれも、皆様のご理解とご協力のもとに行われたものであり、この場をお借りして、心から感謝申し上げます次第です。

昨年は、長きにわたる新型コロナウイルスとの闘いにより、ウィズコロナと、その先の社会基盤を構築してゆくことが求められた一年でありました。区議会では引き続き、区と連携を取りながら、皆様の安全安心な生活を守ることを第一に、感染症への対応に取り組んでまいり所存でございます。

一方で、昨年6月には、かねてより交流を重ねてきたハワイ州ホノルル市議会と、東京都内初の友好議会協定を締結し、両都市の更なる繁栄のため、未来にわたる交流を約束いたしました。また、本年には世界的作品「魔女の宅急便」の作者、角野栄子氏の児童文学館の開設も予定されており、今後はさらに世界へ向けた区の魅力発信と、皆様が誇れるまちづくりに努めて参ります。

本区は昨年10月に区制90周年を迎えました。今後、新庁舎建設、DX化の推進、市街地再開発事業、災害に強いまちづくり等、様々な施策がございます。課題も多岐にわたりますが、江戸川区議会は引き続き、心や人の繋がりを大切にしながら、皆様の声をしっかりと受け止め、変わりゆく時代に合わせた区政運営を行って参ります。

今後とも、区民の皆様の変わらぬご理解とご支援をお願い申し上げますとともに、ご健勝とご多幸をお祈りいたしまして、年頭のご挨拶といたします。

令和5年新春

江戸川区議会 議長 福本 みつひろ
副議長 堀江 そういち

迎春



高木ひでたか 自由民主党	田中寿一 自由民主党	野崎まこと 自由民主党	しかくら勇 自由民主党	田島寛之 自由民主党	斉藤つばさ 自由民主党	白井正三郎 自由民主党	栗原ゆたか 自由民主党	中山たかひと 自由民主党	福本みつひろ 自由民主党
ふじさわ進一 自由民主党	早川和江 自由民主党	川口としお 自由民主党	須賀精二 自由民主党	島村和成 自由民主党	川瀬やすのり 公明党	竹内すすむ 公明党	中道たかし 公明党	関根まみ子 公明党	太田きみひろ 公明党
所たかひろ 公明党	佐々木ゆういち 公明党	くぼた龍一 公明党	堀江そういち 公明党	伊藤てる子 公明党	田中じゅん子 公明党	笹本ひさし 江戸川クラブ	小林あすか 江戸川クラブ	ます秀行 江戸川クラブ	岩田まさかず 江戸川クラブ
小俣のり子 日本共産党	牧野けんじ 日本共産党	セバタ 勇 日本共産党	大橋美枝子 日本共産党	伊藤ひとみ 生活者ネットワーク	本西みつえ 生活者ネットワーク	神尾てるあき えどがわ区民の会	金井しげる えどがわ区民の会	間宮由美 無所属	滝沢やすこ 無所属

低所得の子育て世帯への生活支援等を含む補正予算を可決



～議会の話し合いの流れ～



令和4年第4回定例会は11月22日から12月9日までの18日間の会期で開かれました。

- 11人の議員が、区政の各分野における課題について、区長に質問を行いました。
 - 区長から、新型コロナウイルス感染症対策関係費のほか、低所得の子育て世帯への生活支援給付事業費などを計上した補正予算を含む議案28件が提出され、いずれも原案のとおり可決されました。
- ※補正予算とは？…当初予算成立後、国の補助金等の変動や緊急やむを得ない場合等に予算の追加や変更を行うこと。
- 議員からは、意見書1件が提出され、全会一致で可決されました。
 - この定例会の会議録は、2月中にできあがります。詳細は、区議会ホームページ、お近くの図書館、コミュニティ図書館、または区議会事務局をご覧ください。
 - 上記のQRコードから本会議の録画配信映像を視聴できますので、ぜひご覧ください。

区政への質問

11月28日に代表質問、29日に一般質問が行われ、区政全般の課題について活発な論議が展開されました。ここでは質問と答弁の要旨を掲載します。

QRコードから各質問者の質問映像をご覧になれます。

代表質問

**介護人材、ICT教育の充実
安心と魅力の船堀駅前を**

自由民主党
田中 寿一

問 区長就任から、令和元年台風19号や新型コロナウイルス感染症等の危機への対応を最優先に進めた一方、健全財政の堅持等、将来に負担を先送りしない取り組みを高く評価する。任期満了まで残り数か月となった今、これまで積み重ねてきた「継承と変革」の道を更に前へと歩いていくのか、次なる4年間も「ともに生きるまち」を目指し、その先頭に立って進んでいくのか、区長の意気込みを。

答 区民の声をしっかり受け止め、区政の中で形にすることが責務だと考える。取り組むべきテーマは数多くあり、諸課題にどのように対峙してともに生きるまちを実現していくのか、正解のない新たな問いも生じると思うが、試行錯誤しながら信念を持って取り組む覚悟は、これからも揺るぎはない。区政が抱える諸課題に引き続き挑戦をし、区民の皆様の幸せと地域の発展のために力を捧げていく。

問 2100年における人口減少とそれに伴う歳入減少を前提に、区政のあり方に関する取り組みを「いまから、わたしたちから」始めなければならない。「共生社会ビジョン」の実現には、社会の趨勢に対応するだけではなく、本区の魅力の創造と発信に繋がる積極的な方策を、区民とともに講じる必要があるが、今後どのように取り組むのか。区長の思いを。

答 2100年にかけて「できなくなること・悪化すること」をまず認識し、そのうえで、改めて区として原点に立ち返り、強み弱みや、今後集中的に取り組むべき課題を見出していく。ビジョンとの整合性を図りつつ持続可能な区政運営のため行動を具体化したい。平坦な道ではないが、皆様の共感と力をいただきながら、現在

から未来へ希望の光が灯る、ともに生きるまちの実現に向け歩みを進めたい。

問 船堀駅前地区まちづくりにおいて、複数回にわたって開催された地域住民との意見交換会と駅前のオープンハウスにおいて、どのような意見があったのか。また、それらを船堀駅前地区の次なるまちづくりに、どのように取り入れ活かしていくのか、区長の所見は。

答 合計で580名の方に意見を伺い、災害、水害への対応、賑わいと交通機能の充実、住環境の維持や向上等について意見があった。今後は、まちづくり基本構想をまとめ、令和5年2月に意見公募を行い、その後3月に策定したい。令和5年度以降は、その基本構想を地元と共有をし、まちづくりの機運醸成に取り組んでいく。

問 区職員の心身の健康管理を経営的視点から考えて戦略的に実践する「健康経営」の取り組みは、生産性の向上やより質の高い区民サービスの提供、ひいては区民との信頼関係強化にも繋がるものと考えている。健康経営の導入と、国が認定する健康経営優良法人認定の取得に対する区長の所見を。

答 健康管理では、健康診断やストレスチェック、職員の相談窓口等があり、勤務条件では、時差出勤や様々な形の休暇制度の拡充、メンタルヘルス研修を行っている。区民サービス向上のためにも健康経営は必要であるため、引き続き職員の健康に繋がる事業を検討していきたい。また、健康経営優良法人の申請については、まずは調査から実施していきたい。

問 介護サービスの利用者が増えていく一方で、今後ますます進展していく介護人材の不足に対し、どのように取り組んでいくのか。また、介護サービス利用にあたり重要な役割を担うケアマネジャーの人材確保に対し、より積極的な施策が求められると考えるが、区長の所見を。



介護人材の不足への対応について

答 介護人材の確保のために、介護の担い手の研修助成とその充実、定着奨励金、福祉の仕事相談会等を行っている。介護報酬の引き上げは国の制度のため、全国市長会で重点提言として要望している。ケアマネジャーの処遇改善も既に全国市長会で要望をあげており、区としても、将来のケアマネジャー確保に向け、現在取り組んでいる研修と併せ、人材確保支援を引き続き検討し実行したい。

問 学校におけるタブレット端末の現在までの活用における分析と、今後、どのようにして情報活用能力の向上を中心に一層の活用を図っていくのか。また、学校外での利用について、タブレットを学習とは関係なく長時間利用していることへの心配の声もある。学校外における利用状況をどのように認識し、今後取り組んでいくのか、教育長の考えは。

答 タブレット端末の長所を生かした教育活動の定着と、研修や事例集の作成で教員の指導力も向上したと分析している。今後も個別学習の充実、協働的な学びを実現するツールとして活用し、子ども達の情報活用能力を育む。また、学習以外の長時間利用は健康面からも危惧しており、今後も現場の声も聞きながら、課題を共有して対応策を検討し、家庭にもアドバイスできるように改善を図りたい。

東部地区に温水プールを備えたスポーツ施設の整備を

公明党
川瀬 やすのり

問 今後の区政運営にどのように取り組むのか、令和5年4月予定の区長選挙に向けて、その決意を。

答 ご支援をいただけるならば引き続き区民の皆様と、地域の発展のために力を捧げたい。これまで着手してきた取り組みを、次の4年間においても更に進化、加速させていきたい。

問 新型コロナウイルス感染症の第8波が予想される中、季節性インフルエンザとの同時流行について、どのように取り組むのか。

答 軽症者には検査キットによる自己検査や、オンライン診療等の活用をお願いし、重症化リスクが高い方を確実に医療に繋げる。感染防止の呼びかけは、広報誌等の区が持つ媒体を使い周知する。医師会・医療機関と連携しながら、

区民が安心して療養できる体制を維持したい。

- 問** 本区における今後の子育て支援について。
- ①国による伴走型相談支援と経済的支援の実施について、今後どのような形での給付を考えているのか。また、今後のスケジュールは。
- ②経済的に困窮しているひとり親家庭等について、子どもを守るために区独自支援を迅速に行うべき。
- ③0歳から2歳児を持つ専業主婦家庭の利用も可能な保育制度について検討を。



専業主婦家庭も利用可能な保育制度について

答 ①今回の国の新規事業である出産・子育て応援交付金については、現在、国で審議中である。これから国や都から制度の説明会があるため、その説明会を聞いて、早期に実現できるよう準備を進めていきたい。

②今定例会で、経済的に困窮している子育て世帯に5万円の区独自給付金を提案しており、可決されれば、年内に支払えるよう準備したい。

③保育園での定期的な預かりは、家庭状況の把握ができる一方、受け皿となる保育園の確保が必要となる。今後は少子化に伴う空き定員等の課題も出ると思われるため、地域の子育て支援を担う保育園のあり方について検討を進めたい。

問 高齢者支援の更なる充実について。

①今後、シェアハウスも含めて高齢者の住まいの確保をどのように進めていくのか。

②なごみの家と熟年相談室の今後のあり方について。また、熟年相談室は業務量の増加と人手不足の懸念から、電子化や人員増加等の取り組みが必要と考えるが、区長の見解は。

③補聴器の購入助成について、非課税に近いが基準より若干収入が多いため対象にならず申請を断念する方が多い。対象者拡大の検討を。

④脳の活性化やフレイル予防、孤立化防止に役立つものとして、高齢者へのeスポーツへの参加を促す取り組みを。

答 ①マッチング事業の活用等、数多くの支援を行っている。今後も居住支援協議会メンバー等の関係機関や各種団体とも協力し、様々な手法で高齢者の住まいの確保に取り組んでいく。

②新庁舎移転に伴う今後の地域拠点のあり方も考えながら、なごみの家の機能を高めるため、地域との連携を強化する。熟年相談室は、人員確保に向けて委託料の報酬改定、加算の設定も視野に入れて人員募集の後方支援をしていきたい。また、事務系の電子化も進めているところであり、引き続き連携しながら進めていく。

③令和3年12月から購入費の助成額を引き上げたのと同時に、医療との連携も強化した。助成の内容については、今後の状況を見ながら総合的に研究していきたい。

④今定例会で、なごみの家にeスポーツを導入するための補正予算を提案している。既にeスポーツを導入している共育プラザの子ども達が高齢者に教える等、多世代交流も期待できる。様子を見ながら今後、それ以外の高齢者施設や障害者施設等にも広げていきたい。

問 区内経済の活性化や商店街振興のためにデジタル商品券の導入を検討すべき。

答 区内共通商品券まつりの参加店、売り上げは減少しており、改善が必要と考えている。

商店街、区民双方にとってより有益な商品券まつりになるよう、最適な方策を探るため、商店街連合会と相談しながら、デジタル化を軸とした改善策を検討する。

問 新清掃工場が完成まであと5年となる中、くつろぎの家の跡地に建設する区民施設は、温水プールを備え、幅広い世代の区民が利用でき、障がい者にも優しいユニバーサルデザインのスポーツ施設を設置すべきと考えるが。

答 くつろぎの家の跡地活用については既に勉強会を行っている。清掃工場から供給される温水を活用し、幅広い世代が利用できる誰にでも優しいユニバーサルデザインの施設を基本として検討していきたい。



問 本区の緑化運動から何を学ぶのか。

①「ゆたかな心、地にみどり」を合言葉に緑化運動に取り組み、令和4年、目標であった「区民1人当たりの樹木数10本」を達成した。なぜ区民1人当たりの樹木数が10本なのか。区民はここから何を学ばよいか。

②教育長は、みどりの大切さを子ども達にどのように伝えていくのか。



緑化運動について

答 ①10本そのものを目標にしたものではないため、10本を超えてこれからも増やしていく。みどりの大切さはあって当たり前のものでなく、現在のみどりの状況は先人達の努力の成果である。みどりを守り、育み、創ることを持続することが2100年の本区がみどり豊かなまちであるために不可欠なことであり、そのことをしっかり発信していきたい。

②区教育委員会の教育課題実践推進校指定の小中学校では、本区の自然を教材にした学習や、地域の自然環境を生かした活動・研究を積極的に進めている。今後も、各学校・園の実態に応じて自然を生かした学習を進める中で、みどりが周囲になかったらどれほど無味乾燥な殺伐とした環境になってしまうか、防災にどれほど役立っているか等、みどりの大切さを子ども達にしっかりと学習させていきたい。

問 拉致問題を考える。

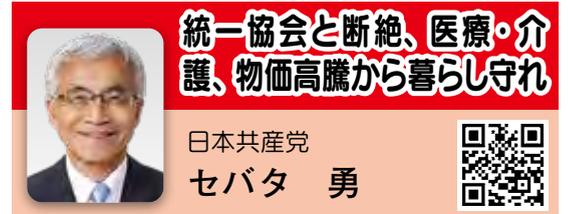
①令和3年11月に拉致問題の啓発促進を目的とする条例制定等、拉致問題解決に向けた活動に積極的に取り組んでいるが、条例制定からこの1年をどのように振り返るのか。

②拉致問題の啓発と解決に向けた国民の意思を示すブルーリボンバッジの着用について。

答 ①条例制定後の令和3年12月、区長、副区長、部長級職員はブルーリボンバッジを着用している。啓発週間に併せ、広報誌やホームページでの啓発、ポスター掲示、タワーホール船堀をブルーにライトアップする等を行った。令和4年12月には拉致問題啓発事業として、映画「めぐみ」を上映する。区としては啓発しかできないが、今後も条例の趣旨に従い、国と連携してしっ

り啓発を行いたい。

②新聞のインタビューでは「帰国は無理でも会うことはできるかもしれない」「一目でも姿を見たい」等、拉致被害者家族の声は切実な願いである。啓発週間はブルーリボンバッジをつけていきたいと考えている。



問 江戸川区と統一協会の関係について。

①区独自の被害救済窓口の設置を。

②過去に受領した寄付の返金等、同団体との関係を明確に断ち切るべき。

③区長自ら信者2世や弁護士等から直接被害実態の聞き取りを。

答 ①区の各々の窓口で受け、専門性の高いものは国の専門機関に繋ぐ等、丁寧に対応したい。

②公費での返金になるため返還はしない。当面、一切の関係を持たないという方針は変わらない。

③国で実態調査等予定されており、動向を注視する。その過程の中で必要があればお会いする。

問 新型コロナウイルスの新たな感染拡大対策について。

①発熱外来を増やす見通しとそのための支援は。

②国や都に対して、重症化リスクの高い施設職員に週3回程度のPCR検査実施を要望すべき。

③ワクチン接種の有料化について。

④国の給付対象外世帯への区独自の給付金や学校給食費無償化の実施を。



新型コロナウイルスの新たな感染拡大対策について

答 ①都で発熱外来の更なる拡大をしている。引き続き医師会に支援制度の周知等行い、医療機関と連携して安心な医療体制を維持したい。

②施設職員への集中的検査は、PCR検査と抗原定性検査を組み合わせると週2、3回行われている。検査方法は国や都の方針に基づき適切に選択されているため、都に要望する考えはない。

③今後の費用負担は国で議論がされるものと考えており、動向を注視していきたい。

④様々な状況を踏まえて、区民生活をしっかりと守るための必要な対策を総合的に行っていく。給食費無償化は様々な意見を伺いながら、区政の持続可能性の観点から検討したい。

問 マイナンバーカードと健康保険証の廃止による一本化について。

①健康保険証廃止は事実上の強制になるのでは。

②保険証廃止への医療機関の実態や意向調査を。

③保険料を払う人が保健医療を受けられる原理原則を守るため、保険証廃止撤回の要望を。

答 ①何らかの事情でマイナンバーカードがない人への対応を国が検討しているため注視する。

②医療現場が混乱しないように、医師会をはじめ関係機関・団体と連携を密にし、相談したい。

③一本化は医療事務のコスト削減等が期待でき、国は国民の意見や質問にしっかり答えるとある。国民皆保険を守ることが何より大切と考える。

問 介護保険制度の見直しについて。

①負担増と給付減の介護保険制度改正について。

②要介護者の尊厳と家族を守るためにも、区長会・全国市長会等を通じ反対すべき。

答 ①国の審議会の動向を注視していく。
②全国市長会で制度の持続可能性等、要望している。何より介護保険制度を守りたいと考える。

一般質問



問 中学校部活動の地域移行については、近年の教育現場での課題のひとつであると認識しており、部活動のあり方は、本区の教職員の職場環境の改善、ひいては子ども達のより良い学びの場の提供に繋がるものと考えます。区として、この中学校部活動の地域移行についてどのように考えており、今後どのように進めていくのか。

答 中学校代表校長及び関係部署と地域移行に向けた課題の洗い出しや、小中学校の教員にアンケート等を行っている。様々な課題があるが、指導者と生徒の受け入れ先の確保が大きな課題であり、令和5年度からは部活動指導を外部指導者が行うことで働き方改革に繋がり、教員の負担を減らしていく予定である。今後も国や都の動向を注視し、生徒達が部活動を選べるという多様性を重視して、様々な課題を受け止める取り組みを始めたい。

問 鹿骨地域を中心に農の風景育成事業が進められている。農地保全の新たな取り組みとして現実的な事業に取り組んでいることは評価するが、まだまだ現場側の理解が明確になっていないようにも感じる。そこで、改めて農の風景育成地区指定に向けた取り組みの目的と、令和4年から地域の方々とは始めたワークショップ等、これまでの取り組みや今後の予定について、区長の所見を。

答 令和5年4月に農の風景の育成地区の指定を受ける予定であり、そこから情報発信やイベントの開催等を行い、知っていただきたい。ボランティア制度の充実や農福連携、担い手の育成等への参加や、地域団体の立ち上げ、農業公園整備も視野に入れる等更なる取り組みを行っていく。地域連携による農地の活用や魅力の発信等、農の風景の保全・育成に向けた取り組みをしっかりと進めていきたい。

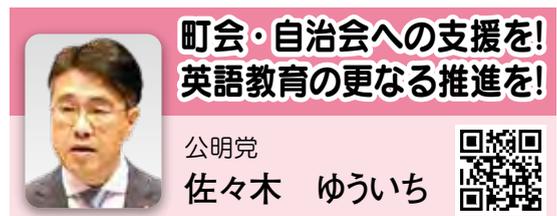
問 区では「来庁しなくてもよい区役所」を目指してDXの取り組みを進めており、相談をメインとする窓口を端末を計画的に配置し、オンライン相談の対応を拡大していると聞いている。区民サービスにおけるデジタル技術の活用は、政府も提唱する「人に優しいデジタル」の考えに基づき、区民と職員の双方にとって使いやすいサービスであるべきと考えますが、区長の所見を。

答 本区でも昨年1月に策定した江戸川区DX推進指針で、やさしいデジタル化や利用者目線で使いやすいサービスの設計にすることを理念に掲げている。利用方法の分かりやすさ等の取り組みは、区民の利便性の向上、職員の事務の効率化にも繋がると考える。今後も、区民と職員の双方に使いやすいデジタルサ-

ビスを追求して実践を重ね、人にやさしいデジタル化が具現化された、来庁不要の区役所を実現していきたい。

問 本区の強みであり築いてきた「地域力」をどのようにして、これからの変容する時代への対応の原動力として活用できるかが、今後の諸課題への解決と、2100年に向けた「共生社会ビジョン」、2030年に向けた「SDGsビジョン」を実現するうえでの強力な推進力になるものと考えます。どのような方法で、本区が誇る「地域力」の更なる向上を図っていくのか、区長の所見を。

答 区民誰もが関心の高い防災と、コミュニティ醸成に有効なおまつりへの参加を軸として、町会・自治会を中心に、PTAやボランティア団体、NPO、事業者等の多様な活動の主体が、より有機的に繋がり協働して取り組むことが重要と考える。これからも町会・自治会をはじめ、あらゆる方々・団体に参画を促し、知識や資源を提供してもらい、相互に連携できるよう継続して支援する。区民の皆様と手を携えて地域力を更に高めていきたい。



問 町会・自治会の現状と今後について。

- ①加入率の推移や、その存在意義を区としてどのように捉えているのか。
- ②加入世帯数の維持増加という目標を、区内在住外国人も含め、今後どのように取り組むのか。
- ③コロナ禍を受けた町会・自治会への今後の支援の取り組みについて。

答 ①加入率は微減傾向にある。地域力の源は町会・自治会にあり、先人達が築いた強固な信頼関係のもと、区政推進の良きパートナーとしてこれからも手を携え協働していく。
②加入促進のチラシ等の多言語化を進め、参加を促す取り組みをしている。今後も様々な場面を通し、外国人を含め多くの方々に参加を促す。
③人的支援と支援金等の経済的支援は、今後も継続する。タブレットを活用したデジタル化の推進や新たな担い手の開拓について、様々な団体と連携し、町会・自治会活動を盛り上げたい。

問 幹線道路の抜け道になっている生活道路・区道の安全対策について、特に大型車両の通行規制を含め、どのような対策を考えているのか。

答 生活道路は、歩行者と自転車の安全な通行を基本とし、都市計画道路整備や歩道整備、交通安全施設整備を進めてきた。引き続き、区民や警察と連携し、交通安全に努めていく。

問 視覚障がい者の踏切への安全対策として、点字ブロックや誘導表示の早期設置に向けた、京成電鉄等の関係機関との調整状況や設置の見通しは。

答 踏切内の誘導帯設置は京成電鉄と合意し、現在、京成電鉄が鉄道の運行上支障がないように耐久性や安全性の検証をしている。踏切手前の点字ブロックは区で先行整備を準備している。

問 若者の子宮頸がん検診の受診率向上のため、関心を高める効果的な周知啓発や、HPV

検査キットの無料配布等、工夫した更なる取り組みが必要と考えるが、区長の所見を。

答 これまでも若者向けリーフレットを活用した個別勧奨やSNSでの情報発信等の取り組みをしており、今後も方法の工夫等、積極的な啓発に取り組んでいく。検査キットの活用は、有効性等を区医師会と協議しながら検討したい。

問 総合レクリエーション公園等におけるリニューアル事業について。

- ①基本構想案への区民の意見募集や意見交換の状況について。
- ②基本構想で謳う「みんなのこうえん」のコンセプトと基本方針について。
- ③区民と協働した公園の維持管理及び運営方針について。
- ④区内外から人を呼び込み、本区の魅力を高める取り組みについて。

答 ①完成が楽しみ等、9割は肯定的意見である。町会・自治会によるチラシ回覧や近隣住民へのチラシ配布、WEB配信での説明も行っている。基本構想策定後も、設計や工事に併せて説明を行いながら区民の声を聴いていきたい。

②「過去から未来へ、たくさんのご縁・つながりが生まれる個性あふれる公園群」「公縁」というコンセプトと、「楽しめる公園」「好きになる公園」「持続可能な公園」という基本方針を大切にしたい公園にしていきたい。

③公園運営は指定管理者が行うが、既存ボランティアや区民の皆様も楽しみながら参加できるよう、区がバランスをとり調整していく。区民参加型の様々なイベント等は、Park-PFIによるカフェ等での地域雇用や整備に区内業者が活躍できるよう充実させていきたい。

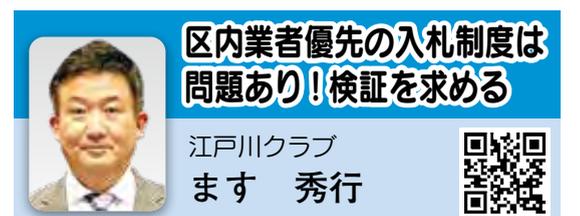
④今までのホームページやSNS等の魅力発信だけでなく、インフルエンサーによる発信やフィルムコミッション等もしていきたい。既存の魅力スポットに加え、芝生広場等の整備を行い、1日滞在できる公園、雨天でも遊べる公園にし、本事業を区の魅力として発信していきたい。

問 グローバル化の進展や社会情勢の変化で英語教育の改革が進んでいる今、英語教育を更に推進すべきと考えるが、教育長の所見を。

答 外国語指導アドバイザーが各学校を巡回し、英語力に不安な教員へアドバイス等、精力的に行っている。今後、子ども達が英語でコミュニケーションを図るうえで必要な基礎・基本を、確実に定着させるための方策を、放課後補習教室での英語教育導入等も視野に検討したい。

問 浮きこぼれた子ども達の現状を把握し、困難さの解決や、区や大学、民間で行われている支援の周知等、その取り組みを進めるべき。

答 これからも教育研修等で、特定分野に特異な才能のある子ども達の存在をしっかりと知らせると同時に、子ども達一人ひとりの良さや可能性を最大限引き出せる教育に力を注いでいく。



問 副区長人事の狙いについて。

①歴代副区長と比較し異色の経歴を持つ船崎副区長を選任した狙いは。法律家視点で政策

形成過程に携わる考え方は、短期的プロジェクトなのか、恒久的な副区長の役割で考えているのか。

②本区初の女性選任をどのように考えるのか。

答 ①政策形成過程の段階から弁護士に入ってもらい、女性視点での政策形成に期待する。副区長でいるかは今後の状況になるが、常に法的視点で政策形成するところは恒久的に続けたい。

②適材適所で選任した結果であり、女性視点という部分においても期待している。

問 西葛西駅前の酩酊者への法解釈と今後の対応について。

①都の迷惑防止条例の解釈は。

②酔っ払い防止法に対する解釈と運用は。

③今後の警察との協力体制と具体的な対策は。

答 ①②警察と協議しているが、条例や法律の適用可否について現状の駅前の飲酒行為の範囲では規制対象にならないという見解である。一方、酩酊状態や粗暴行為等、法や条例にあてはまる状況では警察も対応できると承知している。

③花壇縁へのフェンスやブロック、プランターの設置で駅前の景観向上とともに滞留しづらい環境づくり、防犯カメラ増設に取り組んでいる。警察、地域等と連携し、パトロールや呼びかけを繰り返し粘り強く行い環境改善に努めたい。

問 区内在住外国人の特徴について。

①現在の区内在住外国人の出身国、職業や年齢、性別等の分布と、その特徴は。

②区として外国人犯罪件数や傾向を把握すべき。

答 ①外国人の国籍別人口の上位は、国・都ともに中国、ベトナム、韓国だが、本区はインドが2番目に入る。各国とも男女比はほぼ半々であり、外国人平均年齢は34.1歳で区全体平均年齢より約10歳若い。本区の就業では情報通信業が最も多く、なかでもインド籍の全就業者の半数は情報通信業であり大きな特徴である。

②今後、区内外国人犯罪の状況を把握していく。

問 区内業者を優先発注とする考え方について。

①区内業者優先の理由と考え方について。

②小口発注から大型建築工事まで請負側の市場性が異なるにも関わらず、一括りで区内業者優先とする考え方には無理があるのでは。

答 ①国の方針に基づき、本区でも公契約条例に区内業者の受注機会確保を明記、契約案件や業者規模に応じて基準等も作成し運用している。地域社会への貢献や地域経済活性化に寄与するため、今後も区内業者優先を基本方針にしたい。

②学校改築事業では下請まで含めると多くの業者が参加すること、地域インフラ整備等の担い手であることも考慮すると、今後も更なる区内業者活用が必要であると考えている。

問 区独自施策として、出産祝い金等の名目による現金給付実施の可能性は。

答 負担と給付のバランスの議論をすることになる。今後は国との役割分担も大事になると考え、区で行える部分を真正面から向き合いたい。

①コロナ減便の間だけでも一旦中止を、更に従来の海上ルートに戻すよう、国に求めるべき。

②空港待機中の機体チェックの徹底、通過ルート下の防音対策見直し、「技術的方策検討会」での荒川沿い離陸便ルート検討を国に求めるべき。

答 ①飛行ルート変更は空港の離発着枠を圧縮することになり羽田空港の機能強化と矛盾する。

②羽田空港の徹底した待機中の機体チェックで落下物は0件である。騒音も環境基準を満たしており、技術的方策検討会では何度も検証を実施している。引き続き、国の取り組みを注視し、区民の不安に対し必要があれば国に声を上げる。

問 高齢者の難聴対策、補聴器助成の拡充について。

①補聴器助成対象者の所得制限・年齢制限を見直して希望者全員に、また、現物支給の検討を。

②区の施策として、長寿健診に聴力検査を。

答 ①助成のあり方は引き続き研究するが、現物支給から助成に変えた経緯があるので、この方式を引き継いでいく。

②今後の研究成果等踏まえ、引き続き検討する。

問 子ども達を励まし保護者が納得する教育行政について。

①英語のスピーキングテストについて。

1)今からでも都立高校入試への導入中止を都に要望を。課題を明らかにし来年は中止すべき。

2)35人学級早期実施や少人数授業での楽しい学習が、英語力向上に繋がると考えるが。

②部活動の外部委託について。

1)部活動の地域移行を拙速に行わず、当面は部活動指導員を拡充し、部活動見直しを進めることが必要と考えるが。

2)教員、部活動指導員、保護者等による部活検討委員会を設置し、要望を踏まえた対応を。

③知的障害学級の増設、自閉症・情緒障害学級新設の検討等、特別支援学級の増設計画を持つこと。また、都へ特別支援学校増設の要請を。

答 ①1)実施後はその課題点や問題点をしっかり分析し都へ伝えていく。中止は求めない。2)少人数指導は教員の定数増等、課題もあるため、引き続き国や都の動向を見守っていく。

②1)部活動の休養日等について、区立中学校における部活動の方針に則り適正に設定し活動している。今後も地域移行への体制を整えたい。

2)中学校代表校長及び関係部署と課題の洗い出しを行っている。今後も国や都の動向を注視し、学校を通じて子どもや保護者の声を聞いていく。

③知的障害学級の配置は、児童生徒の動向等を勘案し適正な配置を研究する。自閉症・情緒障害学級の新設は、他区の動向等情報を収集し注視する。特別支援学校の設置は都の所管であり、本区の児童生徒に影響があれば、都に意見する。

答 環境問題、SDGs等時代の変化や地域ニーズに対応したまつりになるよう働きかけたい。

問 障害者支援の現場での性に関する研修を。区が行う虐待防止研修での性暴力の伝え方と参加事業所数は。区で指導検査の結果の公表を。

答 発達相談支援センター等で事業者の性教育研修を検討する。Webの虐待防止研修では事例等交え、2,206件アクセスがあった。現在、指導検査結果は都が公表しており今後研究する。

問 障害福祉計画等策定にあたり当事者への聞き取り調査と、策定委員等の構成に当事者参画を。障害者の意思決定支援の今後の取り組みは。

答 今後の声の拾い方は研究し、様々な当事者が委員として参加できるように検討する。意思決定支援は、国のガイドラインも参考にしたい。

瑞江葬儀所前の交差点と周辺道路の早期整備を



えどがわ区民の会
神尾 てるあき



問 微細藻類の将来への可能性について。

①公園の緑化に微細藻類のBSC工法の活用を。

②学校グラウンドの防砂に微細藻類の活用を。

答 ①6公園でBSC工法の試験施工をしている。植生の回復状況の経過を確認し研究したい。

②ダスト舗装の校庭や築山等施工場所の検討と導入効果について、今後研究していく。

問 選挙における投票率向上について。

①共通投票所制度の導入を検討しては。

②投票済証に本区ならではのデザインを取り入れ、投票に行きたくなる取り組みを。

答 ①費用面等の課題がある。引き続き国・他自治体の動向や情勢を注視し研究したい。

②他自治体の例を参考に検討したい。

問 瑞江葬儀所前の交差点と周辺道路の整備について、区長の所見を。

答 早期の整備完了に向け、残工事を速やかに進めるよう、説明会も含め都へ強く要請する。

斉藤区長は常に真摯に区政にのぞんで下さい



無所属
滝沢 やすこ



問 区長記者会見を飛ばさず、区民に共有を。

答 今後の記者会見のあり方は検討する。

問 自死に至った原因を調べる心理学的剖検の体制を整え、自殺対策に繋げる取り組みを。

答 自殺対策計画を策定し、自殺者が減らない理由を議論している。心理的剖検も勉強したい。

問 児童相談所に赤ちゃんポストの開設を。

答 公でつくるには議論が必要であり、まずは孤立を防ぐ取り組みをしっかりとっていく。

問 子ども心理的安全が守られる学校運営を。

答 各学校の教員の資質向上や人権意識向上のために、研修や指導を継続的に行っている。

問 重たいランドセルの改善や、校則の「中学生らしく」という文言をなくすべき。

答 携行品軽量化は、重さや量への配慮と、個別対応にも応じるよう学校に依頼している。校則は各学校で地域から意見を聞き見直している。

羽田新ルート中止、補聴器助成拡充、納得いく教育を



日本共産党
大橋 美枝子



問 羽田空港荒川沿い新ルートについて。

地域まつり、障害者支援での性的問題、障害当事者参画



生活者ネットワーク
本西 みつえ



問 コロナ禍で地域まつり中止が続くが、再開への見解は。使い捨て容器の使用見直しや、実行委員会に地域事業者等新たな主体の参画を。

議案等の審議結果

議案の内容はホームページに掲載しています。右記のQRコードからもご覧になれます。



令和4年第4回定例会

全会一致となった議案等の審議結果

Table with 2 columns: Item Name (件名) and Result (結果). Lists various budget and ordinance items, all marked as '可決' (Adopted).

Table with 2 columns: Item Name (件名) and Result (結果). Lists items proposed by council members, with results like '可決' (Adopted), '趣旨採択' (Adopted in principle), and '採択' (Adopted).

区長提出議案に対する議員別の審議結果はこちらをご覧ください。



11月29日分 12月9日分

意見が異なった議案等に対する各会派の態度 (○…賛成、×…反対)

※1 議長を除く

Large table showing voting results by party (自民, 公明, 江ク, 共産, 生ネ, 区民, 無所属) for various council items. Results are marked as '可決' or '趣旨採択'.

令和4年第2回臨時会

全会一致となった議案の審議結果

Table with 2 columns: Item Name (件名) and Result (結果). Shows the adoption of the budget amendment (第10号).

区長提出議案に対する議員別の審議結果はこちらをご覧ください。



12月27日分

会派名：自民…自由民主党、公明…公明党、江ク…区議会江戸川クラブ、共産…日本共産党、生ネ…生活者ネットワーク、区民…えどがわ区民の会、無所属…会派に属していない議員を左から50音順に表記しています。

皆さんから提出された請願・陳情

請願・陳情については、こちら⇒



新たに受理されたもの

付託委員会

136号 江戸川河川敷サッカーグラウンド2面に関する陳情

文教委員会

議員から提出された議案

一意見書は関係機関に送りました



○固定資産税及び都市計画税の軽減措置の継続に関する意見書 (東京都知事 へ) 小規模住宅用地の都市計画税を2分の1に軽減、小規模非住宅用地の固定資産税・都市計画税を2割減額、商業地等の固定資産税・都市計画税について負担水準の上限を65%とする措置の令和5年度以後の継続を東京都に求める。

意見書とは？

区民の暮らしに関する身近な問題でも、それが国や東京都等の仕事であるため、区の努力では解決できないことがあります。このようなときに、議会の意思を「意見書」として国会や政府等に提出し、改善を求めていきます。

第2回臨時会の概要

- 令和4年第2回臨時会は12月27日に会期1日間で開かれました。
区長から、出産・子育て応援事業費や子どもの安全対策関係費等が計上された補正予算の議案1件が提出され、全会一致で可決されました。
これにより、令和4年度中に出産した区民に10万円相当の支給や、送迎バスへの安全装置の設置に補助を行うこと等が決められました。

区長から提出された議案

- 議案
令和4年度江戸川区一般会計補正予算(第10号)

総務委員会 主な議案審査内容

○令和4年度江戸川区一般会計補正予算（第8号）

・ひきこもり支援の経費について

委員より、ひきこもり支援推進事業について質問があり、執行部より、ひきこもり当事者の居場所や短時間でも働きたいというニーズから、都補助金を活用し、専門支援員がいる事業者居場所と就労場所となる駄菓子屋整備を委託する。議決後にプロポーザルを行い、令和5年1月中旬の事業者決定後に居場所スペースを、2月には駄菓子屋をオープンするとの答弁があった。

これに対し、委員より、当事者や家族に寄り添い一人ひとりに合わせた相談体制で社会参加に繋げること。また、物件は前回の第3回定例会での議案撤回の教訓から、建築関係の証明書等を確認し選定を慎重に行うこと、採算性も考慮し進めることが要望された。

・学校改築の経費について

委員より、物価高騰等の学校改築への影響について質問があり、執行部より、令和3年度の国土交通省調査では鋼材等が平成30年と比較して約1.5倍上昇した。また、資材調達にも期間を要しているため、事業者と定期的に進捗確認を行い、建設費の高騰や工期延伸については適切に対応しているとの答弁があった。

これに対し、委員より、賃金の急激な変動に対する有効なインフレスライド条項の活用は事業者からの申請が必要なため、本制度の更なる周知を図ること。また、事業者から工期延伸の申し出がある場合は、学校運営に支障ない範囲で可能な限り応えることが要望された。

・上小岩遺跡史料の本区への移管について

委員より、文化財保護事業について質問があり、執行部より、葛飾区保管の上小岩遺跡出土の3万点にもものぼる史料は、所有者や葛飾区と協議を行い本区へ移管される。史料の保管場所は清新第二中学校の空き教室を予定、展示方法等は所有者と相談し検討していくとの答弁があった。

これに対し、委員より、上小岩遺跡史料の本区への移管は、区民の閲覧機会が増えることから高く評価する。多くの方々が地域に目を向けるきっかけとなるよう、文化財めぐりマップ等へ追加し、地域プロモーションを推進することが要望された。

○江戸川区立総合レクリエーション公園及び江戸川区立新左近川親水公園の指定管理者の指定について

委員より、令和5年4月から指定管理者を指定する本事業について質問があり、執行部より、公園内で飲食店や遊具等の設置・管理する民間事業者を公募で選定するPark-PFI制度を活用し、民間の創意工夫でサービス向上を図るとの答弁があった。

これに対し、委員より、公園の管理運営は、区内業者活用や地域雇用を積極的に行い、区内経済活性化に繋げること。また、指定期間が20年と長期のため、モニタリング調査や区と定期的に打ち合わせを行うことが要望された。さらに、一委員より、公園管理について営利追求を目的とする民間企業に委ねることには反対であるとの意見もあった。

議員勉強会を開催しました

令和4年10月28日と10月31日に議員勉強会を開催しました。江戸川区議会では、現在、ペーパーレス化の取り組みのひとつとして、議員個人が使用しているパソコンやタブレット端末から本会議や委員会等の資料を閲覧できるクラウド上の電子本棚「SideBooks」を活用しています。

講師による説明はZoomで行われ、初日の勉強会ではパソコン、2日目の勉強会ではタブレット端末を使用し、SideBooksの操作方法を学びました。

今後もSDGsの推進のため、紙資料の削減とペーパーレス会議の実現を目指していきます。議員勉強会の様子の動画も公開していますので、ぜひご覧ください。

【テーマ】 SideBooks 講習会

【講師】 東京インタープレイ株式会社 日向 洋一 氏



■動画はこちら



■10月28日議員勉強会の様子



■10月31日議員勉強会の様子

区議会ホームページ

小学生向けコンテンツを作成しました

江戸川区議会ホームページのトップページ「よくわかる区議会」に、小学生向けコンテンツを作成しました。「区議会って何?」、「区議会議員ってどんな人?」など、小学生が楽しんで学べるように解説をしています。また、「よくある質問」や「区議会クイズ」等で理解を深め、よく知らない区議会を身近なものに感じてもらえるような構成になっています。ぜひご覧ください。

区議会ホームページ「よくわかる区議会 小学生向け」

<https://www.gikai.city.edogawa.tokyo.jp/guide9.asp>



令和5年第1回定例会開催予定

2月15日(水)	……………	本会議(議案上程、委員会付託)
20日(月)	……………	本会議(一般質問)
21日(火)	……………	本会議(一般質問)
24・27・28日	} 予算特別委員会	
3月2・3・6・7・9日		
13日(月)	……………	常任委員会(議案審査)
14日(火)	……………	各常任委員会(請願・陳情等の審査)
24日(金)	……………	本会議(委員会報告及び表決)

※本会議は午後1時、各委員会は午前10時または午後1時30分開会予定です。

詳しくは区議会事務局までお問い合わせください。

本会議の傍聴はインターネットでもご覧いただけます

より多くの皆様に議会活動を知っていただけるよう、本会議、予算特別委員会、決算特別委員会の様子を、生中継及び録画映像で公開しています。右のQRコードや区議会ホームページからご覧ください。



写真で振り返る江戸川区議会の1年間

2月

コンプライアンスに関する議員研修が行われました。新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、議員の一部はZoomによる参加になりました。

令和4年第1回定例会において予算特別委員会を開催し、令和4年度の予算を審議しました。



4月

ウクライナ義援金の募金活動を行い、集まった義援金については、日本赤十字社に寄付しました。



5月

臨時会が開催され、委員会のメンバーが変更になりました。

6月

6月9日(日本時間10日)、アメリカ合衆国ハワイ州ホノルル市議会と友好議会協定を締結しました。



10月

令和4年第3回定例会で決算特別委員会が開催され、令和3年度の予算が適正に執行されたかを審議しました。



11月

令和4年第4回定例会の初日に議場コンサートを開催しました。

区議会広報委員会 (◎委員長 ○副委員長)

◎高木 ひでたか ○竹内 すすむ
 笹本 ひさし 小俣 のり子